



<https://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

関西3地域グループ合同例会のご案内 「これからの学習支援：対面とオンライン、 図書館員が知っておきたいこと」

日時：2022年2月27日（日） 14:00-17:00

会場：オンライン(Zoom)

申込み：<https://forms.gle/9jUhvNLxxqE3AHCX6>

申込み〆切：2022年2月25日（金）

参加費：無料

詳細 URL：

<https://sites.google.com/site/dtkosakaweb/>

お問合せ先：大学図書館研究会 大阪地域グループ委員会

dtk-obc@googlegroups.com

プログラム：

①事例報告：廣田 桂 氏（熊本大学附属図書館）

（内容：熊本大学附属図書館における学習支援）

②講演・ワークショップ：大山 牧子 助教（大阪大学全学教育推進機構）

（ワークショップ内容：大学図書館のオンライン教材を題材に、長所や改善点のディスカッションを行う。）

使用予定教材：大阪大学附属図書館「図書館活用法」「学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ」等）

[目次]

関西3地域グループ合同例会のご案内 「これからの学習支援：対面とオンライン、図書館員が知っておきたいこと」	...	1
小特集：大図研 東京地域グループ・京都地域グループ合同企画 「新図書館バーチャル見学会～大学内における位置づけと新たな役割～」参加報告	...	2
大図研 東京地域グループ・京都地域グループ合同企画 「新図書館バーチャル見学会～大学内における位置づけと新たな役割～」参加報告	野田 ひかる	...
新図書館バーチャル見学会参加記	藤原 由華	...
会費ご納入のお願い		...
羊図書館雑記帳 ～ないないあるある～		...

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：kyoto@daitoken.com（大学図書館研究会京都地域グループ）

URL：<https://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

大図研 東京地域グループ・京都地域グループ合同企画
「新図書館バーチャル見学会～大学内における位置づけと新たな役割～」
参加報告

野田 ひかる

●はじめに

2021年12月11日(土)、大図研東京地域グループと京都地域グループ合同企画「新図書館バーチャル見学会～大学内における位置づけと新たな役割～」に参加した。オンラインでの開催だったが、同日中(しかも2時間余で)に東京と京都の大学図書館を見学することができるという、まさにバーチャルならではの利点を生かした企画であった。

にもかかわらず、東京大学総合図書館の原様の発表時間には、当方のパソコンの接続不調により、ノートPCを持って家の中をさまようという時間的ロスのため、結果として途中からの参加となってしまった。したがって、今回の報告にあたり議事録に相当するような細かい描写を望まれる方には大変申し訳ないが、以下の通り、ほとんど筆者の感想めいたものが中心となること、先にどうぞご容赦いただきたい。

●報告の概要

東京大学総合図書館様の発表の中で、特に印象的だったのは、基本コンセプトの提示であった。「保存・継承・更新」というキーワードが挙げられていたが、「保存」は創建時の意匠を、「継承」は未来へつなぐための記録であったり、将来的な変化に対応可能なフレキシブルな設計であったり…とのことだった。内容もさることながら、やはり工事に当たってテーマを設定するというのは、特に何年もかかる工事においては、方向性を見失わないためにも非常に重要なのではないかと、という感想を持った。

また工期も2011年～2020年の6期に渡るものだったことから、利用者の利便性等を考慮し、「居ながら改修と玉突き移転」で行われたとのことだったが、どこから、どの順番で行うか計画を立てて進めるのは大変だったことと拝察した。

最後の質疑応答では、全学的な工事の計画とは別に、若手職員自ら参加して「課題検討グループ」が構成されたとの回答があった。これについてはこの報告の最後でも少し触れる予定であるが、日頃業務に忙殺されがちなか中でもしっかりと図書館への問題意識をもち、自分の意見を持つことの重要性を改めて感じた。

続いて京都大学桂図書館(以下、桂図書館という。)のバーチャル・ツアーの発表があった。その概要は、1)桂図書館の概要を紹介(桂図書館の果たす機能、沿革など)し、次いで2)バーチャル・ツアーを利用した桂図書館の施設を紹介するというものであった。

1)においては、まず京都大学における図書館機構とエリア連携図書館の概念を踏まえて、桂図書館の機能の位置づけについての説明があった。すなわち、桂図書館は①桂キャンパスにおける「エリア連携図書館」として図書館機能の全学機能業務の分担拠点である一方で、専門図書館としての機能をも兼備していること、②グローバル・イノベーション拠点の創出、③理工系・科学技術アーカイブの構築、である。それから、およそ20年かけてなされた桂図書館の整備の状況について、キャンパス開設から各学系図書室設置を経て、桂図書館開館、図書移転までを、簡潔に振り返った。また建築物としての桂図書館にも着目し、デザイン監修を岸和郎・京大名誉教授が担当されたことで、この図書館は同教授の建築物としての側面があることも説明があった。

2) においては、別途作成されたバーチャル・ツアーを活用し、メインゲートから各階の施設状況を案内された。説明では360度カメラの映像により、各施設の様子を実際に見学しているかのように感じた。それに先だって、図書館の場所は桂キャンパスの中央に位置しており、どのクラスター(校舎群)からも等距離にアクセスできるとの説明があったが、キャンパスが傾斜地にあるため高低差の関係で2階が正面入口になっているとのことだった。

2階の施設では、まず、メインの3室であり、いわゆるラーニング・コモンズの研究版として位置づけられている、オープンラボ・リサーチコモンズ・メディアクリエーションルームについての説明があった。オープンラボとリサーチコモンズは、それぞれ座席等を可動壁によって仕切ることができること、そして学生からは京都市街を一望できる窓際席が人気であることについて述べられた。つづいてメディアクリエーションルームについては、授業映像や研究成果、サイエンスコミュニケーション用の映像作成を想定していた施設であるとの説明だった。ただコロナ禍の影響により、オープンラボとリサーチコモンズについては、一時は什器の設置形態をスクール形式にせざるを得なかったこと、メディアクリエーションルームについてはつい最近完成したとのことだったが、もう少し早く開館時点で完成していればコロナ禍中に大活躍だったはずとのことだった。

続いて1階閲覧室の案内においては、全席が電源完備であること、また一部は多様な利用者を想定して上下可動式の机を設置していること、デザイン監修者の強い意向で、什器のデザインの基調が黒と木面であることも説明された。他にも長尾文庫の設置とその経緯や、各学系の図書室の配列を引き継いでいる書庫なども興味深く感じたが、とりわけ印象的だったのは、「桂の庭～京都大学桂図書館研究シーズ・カタログ」という展示企画を他の学内他部署と連携して行い、図書館内を研究成果の発表の場としている取り組みであった。

以上が説明された後、質疑応答となった。ここではゲートを設置していない中での入館者数統計の方法や、閉館後の学生・教職員の入退館の方法など、様々なテーマで活発な意見交換がなされた。特に印象深かったのは、①図書館の施設設計において、どの程度図書館職員の意見が反映されたのかという問いに対して、施設設計に図書館職員や教員が意見を言うのが前提であり、反映されたところは数え切れないという回答がなされたこと、また②障害を持つ学生に配慮した設備についてお聞きしたところ、点字鋏の設置の他、利用者の多様性を前提とした施設のあり方について議論した際、利用者専用のエレベーターが予算の都合で設置されないこととなり、結果的に利用者の動線と職員の動線を分離できなかったという話があった。実は筆者の勤務先の大学図書館もエレベーターが業務用に特化しており、とりわけ1階に和洋製本雑誌架があるにもかかわらず、利用者は階段(しかも螺旋状)でしか移動できないという構造的な問題を抱えている。いつかはこの状況を解消したいと考えているが、桂図書館様も多様な利用者に対していけば一般的な想定はできても、なかなかそれ以上の取り組みは予算的にもその他現実的な事柄からも、困難なことが発生したのではないかと拝察した。

●本報告への所感

筆者は日頃より、図書館がどのように大学の教学に関わっていくのかということについて考えているが、その一方で、なかなか明確なビジョンが持てないもどかしさも感じている。例えば勤務先の大学は京都大学桂図書館様と同様、坂の傾斜を利用したキャンパス構成となっているが、2021年4月に大学の管理部門・教務部門・キャリアセンター(進路就職課)などが一つの建物に集約され、場所も坂の頂上からキャンパスの中央寄りになってしまったため、学内の人の流れが変化してしまい、図書館棟のあるエリ

ア一帯が一時、ゴーストタウンのような状態になってしまった。その後、旧管理棟跡地にcommonsが建設されたため、学生の流れはやや復活しつつあるものの、利用者はキャンパスの東端にある図書館まで、実に多くの階段や坂道を登って来てもらわなければならないような状況である。つまり昨今のコロナ禍の影響だけでなく、入館者は減少傾向にあり、学内でも図書館が忘れ去られるような存在になっていないかという危機感を抱いている。そういった地理的な条件を克服するためにも、また学内の他部署との連携を図る意味でも、「桂テクノサイエンスヒル構想」に代表されるような、図書館をフィールドとして、図書館から発信して、図書館をメインとして、キャンパス全体を活性化させようとする取り組みは、今後の新たな教学連携のあり方を考える一つの契機となった。

また、今回発表されたどちらの図書館様も、大学図書館の改修・建設を進めていくなかで、図書館職員としての意見を積極的に述べられている様子がかがえた。それにはやはり、自分の中で大学図書館のきちんとした理念型を持つことが重要だと思った。現時点では、まだ強くこうしたい、という希望や考えを持っているものではないが、今後このような機会を通して、何か本学図書館に取り入れることができるものがないか、いろいろと学ばせていただきたいと思う。

のだ ひかる (京都橘大学図書館)

新図書館バーチャル見学会参加記

藤原 由華

とても出不精で大図研のイベントもほとんど参加したことの無い半幽霊会員の私の目にふと止まったのは、「バーチャル見学会」の文字でした。しかもいつか見てみたいと思っていた改修後の東京大学総合図書館と、京都大学所属にもかかわらずまだ一度も訪れていなかった新築の桂図書館とのこと。これなら参加できそうかも、と申し込み、当日は開始直前までゴロゴロぐだぐだ、とても人様には見せられない休日モードの格好のまま、自宅 PC から接続しました。Zoom に入室が許可されてまもなく、主催者側の長坂さんからコメント欄で原稿依頼のご連絡が。普段ご無沙汰していることもあり、これはお引き受けせねばなるまい、と、それからは多少気を引き締めてメモを取る準備をし、さてバーチャルツアーが始まりました。

東京大学総合図書館

東京大学の原さんのバーチャルツアーは、パワーポイントを使って進められました。まず最初に、図面や改修スケジュール表によって概要が示されました。興味深かったのは、歴史的な建築物を残す改修であったこと。この点は、このあとの紹介でも随所に示され、今回の改修のポイントであったことがよく分かりました。そしてもう一つは、なるべく休館を少なくするために、「居ながら改修」したこと。その代わり余計な時間も手間もかかったそうですが、東京大学としてはその選択肢しかなかったでしょう。そのためどれだけの準備と作業が必要だったことか、自分がもしも担当者だったらと思うと目まいがしそうでした。

このあと、館内各所の写真とともに解説がありました。たとえば有名な外観（本を表したデザインというのは本当ではないそうです）は、「きれいにしすぎない」ことに気をつけて改修されたとのこと。あえて古色を残すというのが文化財の修復のようで（いえ、東大総合図書館はまさに「文化財」というべきなのでしょう）とても面白く思いました。歴史的意匠を生かす観点は建物だけでなく、什器類にも及んでいます。たとえば、倉庫から見つかった昔の照明を復刻して使用したり、大閲覧室の机は 90 年以上使ってきたものをそのまま使ったりしているそうです。机の傷はきれいに直す予定でしたが、これがアンティークの味なので直さないほうが良いと職人さんが主張され、そのまま残してアクリル板を敷いて使用することになったそうです。とてもステキなエピソードだと思いました。

とはいえ、歴史的意匠と現代的な需要とを両立させるのは様々な困難もあったとのこと。たとえばバリアフリー。歴史的建築を活かすために、完全にバリアフリーの動線を実現できなかったのが心残りだったとのこと。他の利用者と同じように正面から車いすの方も入れるようにしたい、という職員側の希望は、残念ながらかなわなかったそうです。しかし、普通の黄色ではない点字ブロックを使って、歴史的建物に違和感なくかつ実用にも耐えるものを選定するなど、できる限りの工夫をされたようで、バリアフリー支援室との連携のもと、実際に障害を持っている学生の意見を取り入れたとのこと

す。今後、いずれの図書館でも、改修する際には実際の利用者の意見を聞いたバリアフリーの視点は欠かせないと感じました。

現代的といえ、歴史的建造物を生かしながらも、たとえば自動書庫や、壁一面がホワイトボードになっているライブラリープラザ、センサーで漏水を監視する書庫、光の点滅で視覚障害者にも知らせる火災報知器など、今風な設備もしっかり取り入れられています。漏水は図書館員としては恐怖の的なので、センサーで監視するというハイテクぶりが大変うらやましく思いました。

まとめとして原さんがおっしゃったのは、今後の改修にも耐えるフレキシブルな設計、適切なメンテナンス、図面などの建物の履歴を継承する重要性などで、特に、建築などのプロの方との共同作業の経験はとても重要で他の方とも共有していきたい、とおっしゃったのが印象的でした。

京都大学桂図書館

一転して、京都大学桂図書館は、何もないところから一から建てられた図書館です。長坂さんの発表は、パワーポイントに、桂図書館のサイトで公開している図書館バーチャルツアー (https://www.t.kyoto-u.ac.jp/lib/ja/katsura_library/virtualtour) を組み合わせたもので、そこからしてとても斬新さを感じました。バーチャルツアーはいつでも見られますので、皆さんもぜひ見てみてください。実際に歩いているような感覚で、好きなところに行き、好きなように見学することができます（調子に乗ってグルグル見回していると、少し乗り物酔いになりそうでしたが（笑））。

ご発表の最初は桂図書館の位置づけの紹介からで、工学研究科の部局図書館であると同時に、全学の図書館機能を担うエリア図書館でもあるという、京大独自のあり方が説明されました。その性格が、図書館のあり方にも反映されています。

桂図書館としてもっとも特徴的な施設は、3つのルーム（リサーチコモンズ、オープンラボ、メディアクリエーションルーム）とのことです。今はまだ機材も整っておらず、コロナ禍の間は通常の自習室として使われていたこともあって本来の機能が発揮されていないとのことでしたが、オープンサイエンス支援を担う施設として、今後の発展に注目していきたいと思います。また、工学研究科の先生方のフィールド実験の場として、館内外で様々な実験的なデータを取っていたり、URA との共同で、研究を紹介するスペースが設けられていたり、という工学系の図書館ならではの工夫も面白く感じました。

他に興味深く思ったのは、（他の方の質問によって判明したのですが）入り口にはブックディテクションしかなく、入退館ゲートがないことです。現在はコロナ対策のために入館記録を取っているそうですが、本来は入館に際してはカードも何も要らず、まるで公共図書館のようです。構えることなく、ふらっと立ち寄れる図書館として、面白い特徴だと思いました。同じようなオープンな思想は大変眺望のよい閲覧スペースというところにも感じ取ることができます。また、工学系専門図書館なので、読み物的な図書が少なかったそうですが、京大附属図書館長や総長を歴任された故長尾眞先生の旧蔵書が先生のご生前に寄贈され、長尾文庫として壁面の書架に整備されたそうです。長尾先生の図書館への思いも引き継いで、理系研究者が研究途中に少し息抜きができる憩いの場として、利用者に愛される図書館になってほしいと思いました。

今回、参加してみても感想ですが、バーチャルツアーは、現地でのリアルツアーにはやはりかなわない部分があります。しかし、私のような不精者にとっては、バーチャルツアーだからこそ参加できた、という面はいくら強調してもしすぎる事はありません。

場所も時間の制約もなしに、自宅にしながら図書館見学ができる、というのはなんとありがたいことでしょう。また、スライドでの説明は、たとえば沿革や図面やスケジュール表など、補足資料も入れることができ、意外と分かりやすく良かったです。

東京・京都両地域グループの合同企画という点も、オンラインならではの面白く思いました。たとえば、北海道と沖縄の図書館を同じ日に見学、なんてことも可能なわけで、今後もぜひ続けていただければと思います。

また、たとえば、ある観点に絞って複数の図書館が「うちの図書館では」を紹介する、という、テーマ別図書館ツアー、というのも面白いかも、と今回聞いていてふと思いました。たとえば、今回多くの質問が出たバリアフリー対応など、各図書館で工夫されていることがあるかと思います。他にも、ラーニングコモンズや自動書庫など、複数の図書館に同種の施設や設備が入っていることもあるでしょう。あるテーマに絞ってたくさん事例を見比べるというのも面白そうだと思います。

今回企画してくださった東京地域グループ、京都地域グループの皆様、そしてご案内してくださった東京大学の原様、京都大学の長坂様には心からお礼申し上げます。本当に楽しかったです。今回参加されなかった皆さんも、参加のハードルはとっても低いですので、もし今度機会があれば、ぜひお気軽に参加してみてください。

ふじわら ゆか (奈良教育大学図書館)

◇ 会費ご納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

2016/2017年度(2016年7月～2017年6月)より、大学図書館研究会会費は、すべての会員の皆さまに、直接大学図書館研究会事務局へご納入いただくこととなりました。

一括徴収方式に移行いたしましたが、京都地域グループは年度継続の前に会費をご納入いただく前納があまり進んでいない状況でございます。ワンデイセミナーやグループ報は京都地域グループ費により開催・発行させていただいております。ご多忙のところ大変恐縮ですが、会費のご納入のほどよろしくお願いいたします。

会費は、¥7,000(大図研会費：¥5,000+京都地域グループ費：¥2,000)/年度です。

【振込先】

郵便局 00190-2-79769 大学図書館問題研究会

■銀行名 ゆうちょ銀行 ■金融機関コード 9900 ■店番 019
■預金種目 当座 ■店名 〇一九(ゼロイチキュー店) ■口座番号 0079769

ご不明な点は大学図書館研究会事務局(会費担当)(kaihi@daitoken.com)までご連絡ください。

※ 学生会員制度(試行)として、学生の方には特典をお渡ししております。

詳細は京都地域グループ Web サイトの「学生会員制度の試行について」をご覧ください。

『羊図書館雑記帳』

水知せり様に大学図書館に関するマンガ掲載第3話です！応援コメント・ご感想などお待ちしております！

作者：水知せり

あたたかな日差しに春の気配を感じる今日この頃ですが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。

時節柄、環境が変わり、対応にお忙しい方も多いかと存じます。

私はというと、環境というよりも時代の変化に伴う新しい情報の波におぼれそうになりながらも勉強をしている日々です。

絵一つとっても使用画材はアナログからデジタルに、表現形態も変わっており、勉強したい気持ちと目の前の課題をなんとか乗り越えなくては、という状況に四苦八苦しています。

個々人で色々なことができるようになった分、そこに至るまでの道のりが遠いような近いような、焦りにも似た気持ちを覚えます。それでもひとつずつ、こなして自分のものにしていければと思います。

ないないあるある

